

1学年 SakuraTime (あおもり創造学) で 弘大生が探究活動に伴走してくれたよ！

1学年の SakuraTime では、探究活動に弘前大学教育学部「総合的な探究の時間指導法」受講学生約150人が伴走する取り組みを、11～1月にかけて実施しました。興味関心から立てた問いを、学校外の人に見てもらい、問いを見つめ直すことができました。また、大学生にとっても、探究活動を指導する実践の場として、学びを深めたようでした。

○11月9日(木) 1学年と弘前大学学生との交流会

探究活動の伴走は、グループ同士で行いました。その顔合わせが本校体育館で実施されました。自己紹介や興味関心について情報共有し、中には自分の問いについて大学生に質問する姿も見られました。



大学生も、授業で習った探究活動の指導法を実際にやってみるということで、非常に熱心に取り組んでいました。高校生の問いに向き合い、どのような声かけが有効か、真剣に考えてくれました。

○高校生のワークシートに「赤ペン先生」

12月は対面ではなく、高校生が作成したワークシートに大学生が気付きや励ましを記入する、「赤ペン先生」方式で問いを深掘りしていきました。また、ワークシートだけでなく、共有しているスプレッドシートで大学生に質問したり、高校生にアドバイスする様子も見られました。

①どの地域が対象か？	青森県、日本全国、海外からいくつかの国 (寿命、健康に対する意識・取り組みの比較のため)	比較することはいいけど、 寿命が長くて国と青森県の違いを知らないといいかも！
②対象はどんな人を想定している？	特に青森県民、また日本国民の中の健康に対して悩みを持っている人	たしかに悩んでいる人を解決できればいいけど、どんなネタを探せばいいかな？ 年代も比較したいかも！
③いつの時代？	現在	現在も何年～何年という範囲を決めた方がいいと思います！
⑤探究する見通しが立ち、調査や実験を実行できるか？	ネットで調べたり知り合い聞いてみる また、自分は何を得たいか考える	ネットは不正確な情報が多いから、 本や論文をちゃんと読んでおきましょう！
⑥弘大生からのコメント	遊ぶ＝運動だけではなく 他にも遊びがあって固定観念で考えない 大人は「遊ぶ」と子どもは「遊ぶ」の違いを見つけてみる と興味深い！！	→固定観念を取り払うのは難しいことかもよ… 色々な人についてみるのもいいかもよ！ →大人も「遊ぶ」がありますよ、 「あそび」って言ったときに ネットと子どもでどう違うか、 考えたり調べたりしてみると おもしろいかも！

○2月8日(木) 1学年「私の探究活動」中間報告会

4月から取り組んできた探究活動を紹介する中間報告会が行われました。保護者、大学関係者だけでなく、伴走してくれた大学生の参観希望者も報告会に足を運んでくれました。

1学年全生徒と大学生との連携は今年度がはじめてでしたが、次年度も引き続き繋がってほしいと思います。弘前大学の先生方、学生のみなさんありがとうございました！

中高生の「消費者市民社会の実現」に向けた探究学習を 弘大生が応援するプロジェクトに参加しました！

プロジェクト1 高校生と大学院生との探究学習会

本校生徒8名、弘前高校生徒2名が、弘前大学教育学部の大学院生との対話をもとに問いを深める学習会を、12月に本校物理室で行いました。今まで行ってきた探究を大学院生に見てもらい、さまざまな視点で問いや仮説、検証方法について話し合いました。また、対面だけではなくgoogle スプレッドシートを用いて、冬季休業中も探究を深める学習会を継続して行いました。



探究活動発表会で使用したスライドをもとに、複数の大学院生から意見をもらっています。大学院生もどう探究を深めるか、考えています。

プロジェクト2 「消費者フォーラム in Hirosaki」成果発表会

探究学習会で探究を深めた成果を、1月20日(土)弘前大学にて発表会という形で披露しました。7名はポスター発表、1名はステージ発表で、参加した方々から多くの意見やアドバイスをもらうことができました。

ステージ発表を紹介するよ！2年 村田光さんの探究です。

『私たちの身近な自然環境』

1 探究の目的

野外活動の楽しみ方やメリットを多くの人に発信することで野外活動をするきっかけとなり、自然環境について関心・興味を持ってもらうことで自然環境破壊の防止に少しでも繋げることである。

2 探究活動(問いを深める)

(1) みどりフレンズというボランティア活動参加

開花時期が過ぎたアジサイの間引き作業を行い、スタッフの方からアジサイのことやこの仕事の楽しさ大変さなどを教えていただいた。様々な人と交流したことで時間を忘れ、楽しく活動を終えることができた。しかし中央生の参加者が見られず、なぜ参加しないのか調査すると、学校と部活で時間がなかったり、楽しみ方・メリットが分からないということだった。そこで私は自然の楽しみ方やメリットについて問いを深めることにした。



(2) 日本野鳥の会運営の探鳥会参加

天気が良く多くの野鳥を観察できた。今まで意識して身近にいた野鳥を見ることはなかったため、予想以上に多くの種類の野鳥がいることに気付かされた。また、他の参加者の方々から野鳥についての知識をたくさん教えていただき、楽しみながら新しい知識と貴重な体験を得ることができた。

(3) (1)(2)の活動による精神的な変化

一つ目は、不思議な満足感や達成感を感じ、時間と心に余裕を持たせたことで、自分のやりたいことに集中できたこと。二つ目は、人とコミュニケーションを取ろうとする意思が強くなったこと。三つ目は、なんでも積極的にやってみようと思うようになったことだ。この三つの精神的な変化から、野外活動をする则行動力・積極性・コミュニケーション能力が身につくのではないかと考え、これを新たな問いにした。

(4) センス・オブ・ワンダー

大学院の方に、レイチェル・カーソン著作の「センス・オブ・ワンダー」を進められた。レイチェル・カーソンは、「《センス・オブ・ワンダー(自然に目を向け感動する心)を持つ人は人生に飽きたり疲れたり孤独に苛まれることがない。必ずや内面的な満足感と生きていることへの新たなよろこびを見つけられる。そして生命の終わりの瞬間まで生き生きとした精神力を持つ》》と言っている。つまり、野外活動をしたことで精神面に良い影響をもたらされるのは、私だけでない分かった。

消費者フォーラム in HIROSAKI という場でより多くの人に自然環境や野外活動について知る機会になって欲しいと思い、発表した。この経験は、これからいろいろな場面で役に立つと思う。この経験を糧にこれからも探究を深めていきたい。